



学校だより

2月号(第554号)
令和4年1月31日
横浜市立すみれが丘小学校

学校教育目標

〈すすんで みんなで れいをつくして がんばりつづけて おもいあって ががやきつづけるすみれっ子〉
～豊かな人間関係の中で、一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合う子を育てます～

信念

副校長 山田 和仁

2022年は大雪の中での授業開始となり、子どもたちの喜ぶ姿が見られました。1月の教室前の廊下には、書初めの作品が掲示されていました。残念ながら今年も学年一斉に書初めをすることはできませんでしたが、一年生は「ふじ山」(硬筆)、二年生は「元気にあいさつ」(硬筆)、三年生は「友だち」、四年生は「明るい心」、五年生は「新しい風」、六年生は「将来の夢」を書きました。一人ひとりが新しい年に際して希望や目標を思い描いて書いている事が感じられました。(内面のSUMIRE1月のトピックスもご覧ください!)

昨年、東京オリンピックが無事終わり、私たちの心を熱くしてくれたスポーツ選手の引退のニュースを耳にすることが何度かありました。卓球の水谷隼選手、野球の松坂大輔投手、最近では体操の内村航平選手です。現役を引退する決意とはいかほどのもののでしょうか。内村選手の会見を聞くと、「世界一」になるための目標をもち続け、誰にも負けないほどの練習をしてきたことがうかがえました。世界を相手に自分の限界と戦ってきた人の言葉には重みを感じます。一方、サッカー界では、三浦知良選手がチーム移籍をして現役続行を表明するニュースがありました。50歳を超えてなお、トップアスリートとして自分を磨き続ける思いには敬意を表したいです。

さて、学校だより11月号で私は宇宙について書きましたが、その後、学校司書の方から1冊の本を紹介してもらいました。世界初の家庭用レンズ式プラネタリウムの投影機を開発した大平貴之さんの自伝でした。私が書いた文章を見て薦めてくださったのでとてもうれしかったです。その本を読んでみると、私がプラネタリウムに通っていたのと同じ時期に、同じプラネタリウムに行っていた小学生が投影機を作ったことに驚きました。大平さんは、小学校の校長先生からプラネタリウムの館長さんを紹介してもらおうなど、投影機を作りたいという夢のために情熱を燃やし続けたそうです。「念ずれば花開く」(詩人:坂村真民さんの言葉)のように、夢をもち続けることや実現するために努力をして進んでいくことの大切さを改めて知りました。子どもたちにも、ぜひとも夢や信念を実現して自分の未来を切り開いて行ってほしいです。まずは図書館に行って、本との出会いから新しい世界を探してみたいはいかがでしょうか。

1月21日から神奈川県にもまん延防止等重点措置が適用されています。世界中の人々が共通の目標のために協力して収束に向かうことを願うばかりです。学校でも引き続き感染症対策に努めてまいりますので皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。